

茨城における

戦争の記憶

第14回 茨城大学人文社会科学部 地域史シンポジウム

戦後73年を経過し、戦争体験者がいよいよ減少してきている現在、先の戦争の体験をどのように記憶し、継承していくかが問われています。茨城県内には様々な戦争遺跡があり、戦争に関わる展示施設や記念碑、記憶の継承のための活動が存在します。それら一つひとつの実践について紹介・検討するとともに、今あの戦争の何をどのようにとらえ、伝えていくべきか、議論を深めたいと思います。

その継承

〔基調講演〕

柳沢遊（慶應義塾大学名誉教授）「地域における戦争体験——多様性とその継承について」

〔個別報告〕

丹賢一（郷土史研究者）「北茨城における風船爆弾（陸軍）と第一四一特攻艇「震洋」（海軍）について」

張泳祚（茨城県朝鮮人戦争犠牲者慰霊塔管理委員会事務局長）「戦時下の茨城県朝鮮人と日立鉱山」

金澤大介（筑波海軍航空隊記念館館長）「戦跡の活用と戦争の記憶の継承について」

茨城大学人文社会科学部日本近現代史ゼミ「茨城県内における戦争モニユメント調査報告」

〔会期〕2019年2月3日（日）12時30分～17時

〔会場〕茨城大学人文社会科学部講義棟10番教室

JR水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗り、「茨大前」で下車。時間帯によっては、「茨大正門前」（最寄り）で下車することができます。（バス乗車時間は約25分）

〔入場料・申込〕入場無料、申込不要

主催：茨城大学人文社会科学部

後援：茨城県教育委員会 茨城新聞社 茨城大学五浦美術文化研究所
茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク

問合せ先：kei.sasaki.1020@vc.ibaraki.ac.jp（佐々木啓研究室）